

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	中島 克樹	専 攻 名	社会開発 工学専攻	学籍番号	10TA329E
論文題目	長野県における短期滞在型観光の発生需要に関する研究				
<p>現在長野県の観光を取り巻く状況はここ数年全体的に減少傾向にあり、大変厳しいものとなっている。この状況を改善していくためのキーワードとしては、ニーズ変化への対応、顧客満足度の向上、地域特性を活かした観光魅力づくり、スキー場や温泉地の活性化、国際観光市場の開拓などが挙げられ、これらに対しさまざまな対策がとられている。しかしそのどれもが県外から誘客することを目的とした対策ばかりであり、県内の人々の観光動向に対しての対策はあまりなされていないのが現状である。</p> <p>そこで本研究では、県内観光促進のため県内の人々の観光動向や需要に焦点を当て、長野市、松本市、上田市、飯田市の居住者を対象に観光に関するアンケートを行った。そしてアンケートの結果をもとに一般的に用いられている分析手法である多変量解析の中から主成分分析とクラスター分析を行い、単純集計だけでは分からない県内旅行者の旅行傾向を明らかにし、さらに、近年使われるようになってきたテキストマイニング、自己組織化マップを用いて分析した。テキストマイニングでは、今までは分析の対象から外されていた自由記述の項目に対し分析を行い県内旅行の動機付けを把握し、自己組織化マップではRというソフトを用いて、県内旅行者がよく利用している観光地の特徴を旅行内容、意識、満足度のデータを用いて特徴マップを作成し、観光地間の違いや特徴を明らかにした。そして、これらをもとに県内旅行者の動向や短期滞在型観光の発生需要について分析、考察し、どうすれば県内旅行者を増やすことができるかについて検証した。その結果、宿泊旅行では、日々の疲れをとりたい人や癒しを目的とする旅行で、温泉に行く旅行者が多く、日帰り旅行では、自然や風景を見て楽しむような旅行者が多いことが分かった。また、観光地の特徴として、例えば、よく利用されている温泉の中でも別所温泉、渋温泉では、利用者の8割以上が旅館に宿泊しており、特に渋温泉は周辺の観光地が充実しているため利用者の満足度も高い。反対に、上山田温泉は評判の良いところを旅行したいという意識の旅行者が多く、期待はあるものの、実際の満足度はあまり高くない。また、野沢温泉の利用者はスキー・スノーボード目的で、同行者に友人が多いことから、スキー・スノーボードをしてその後温泉に入るといようにセットで考えていることが分かった。これらの旅行者の動向と観光地の特徴を生かした対策をとることで県内旅行者増加につながると考えられる。</p>					